

Take Free  
ご自由にお持ち帰ってください

OTEMON

学生・教員・職員のためのインタラクティブ・マガジン  
[ブリッジ]

# Bridge



▲ 学園祭を彩ったフォトモザイクアートと実行委員会の学生たち

vol. **18**

SPECIAL FEATURE

特集: **追大の新しい学びのかたち!**

## 105分授業を大解剖!

特集: **総持寺キャンパス前のイオン探索!**

学生企画広報スタッフがイオンタウン茨木太田のお店を紹介

連載: **社会へのBridge** [卒業生×在学生]

Vol.12 | 大嶋 玄(GEN) 氏 [ 画家 ]



想像もしなかった自分史がはじまる

おうてもん

**追手門学院大学**

< 自分史上、  
想像以上!





Q

## そもそもどうして105分になったの？

**A** 授業時間を15分増やすことで授業内でのディスカッションや、アウトプットの時間を充実させ、学生主体の学びへと転換を図っています。また、試験期間の廃止と合わせ半期を4週間短くし、課外活動を活発に行う環境を整えることもねらいです。

Q

## 期末のテストがなくなったって本当？

**A** 本当です。定期試験期間を原則廃止し、授業ごとや単元ごとに到達度を確認し、レポートや成果物と合わせて評価を行うことを基本としています。真に学びが深まったのか、知識が身につく判断力や発信力が向上したか等は、一度さりの試験での評価ではわかりにくいものです。教育の質保証の観点から、学びの変化に合わせて評価の方法も変革しています。

Q

## 授業の内容には違いが出る？

**A** 授業の内容や形式にもよりますが、教員からはこれまでよりも「授業の振り返りや質問に時間を充てることができた」「グループワークやディスカッションなど学生のアウトプットの時間を増やした」といった声もあり、授業の形も変わってきているようです。

Q

## 授業期間・長期休みはどう変わる？

**A** 半期の授業期間が4週間短くなった分、課外での活動や学びにあてる期間が長くなりました。この期間をフィールドワークや海外留学、課外活動、ボランティア活動、インターンシップなどに充てることが期待されています。ぜひ、計画的に大学が提供するプログラムをはじめ、様々なことに挑戦しましょう。



Q

## 105分授業で心掛けておくポイントは？

**A** 学んだ知識から自分の考えをまとめたり、グループで議論した内容を一つの意見として発表するなど、これまで以上に授業の中でのアウトプットが求められています。主体的に授業にのぞむ意識を欠かさないこと。そして、予習や準備をして自分の考えを先に巡らせておくことも有効だと思います。

Q

## 授業をやってみて実際どうだった？

**A** 右下のグラフの通り、学生の授業満足度はわずかですが上昇しています。また、授業を行う教員からは「学生からの自発的な質問が多くなった」「1回の授業でできることが増え、結果的に習熟度が向上した」「課題とフィードバックに十分な時間が割ける」「学生と双方向対話をする時間が増えた」といった声が寄せられました。

# 105分授業を大解剖!

2021年4月より1コマ105分授業・半期13週間の新しい学年暦が導入されました。従来の90分授業より15分ながくなったことで、学びはどのように変わったのか？導入のねらいを再確認しながら、学生や教員の声を交えて105分授業を振り返ってみます。



追大の新しい  
学びのかたち!

### 学生に聞いてみた!

## 105分授業って実際のところ、どう思う？

当事者である学生たちは、どう受け止めているのか。105分授業を受けてきた学生の声を取り上げてみます。「できることが増えた」といった肯定的な意見も寄せられました。

少人数でのディスカッションの機会が多くなったのが良かった

授業時間が長くなったことでアウトプットできる時間が増えた

これまで駆け足だった部分がじっくり取り組めるようになった

途中で5分程度の休憩がないと、後半で集中力が切れてしまう

定期試験がなくなり、試験前にまとめて勉強する負担が減った

時間に余裕ができたことで自発的に質問する機会が増えた



### 2021年度秋学期 アンケート

## 授業満足度調査結果

どちらかといえば  
思わない 6.9%

思わない 3.3%

思う・どちらかといえば思う  
(2020年度秋学期は89.6%)

89.7%

約9割が  
授業に満足!

満足度はわずかに増加し、学生や教員アンケートでも、概ねデメリットよりもメリットに関わる回答が多くみられました。

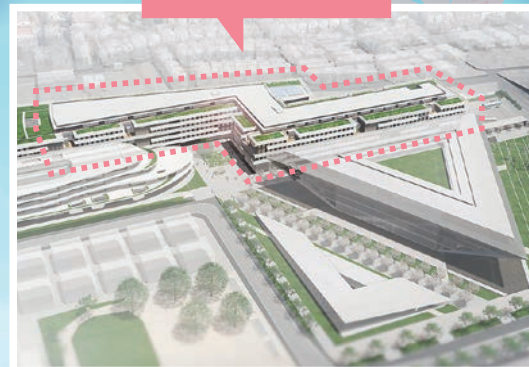


# 追大生にとっての 新たな学びの場、誕生！

New Learning Place  
at Sojiji Campus

2025年4月  
開設予定！

II期棟を開設！



総持寺キャンパスは、まだまだ進化を続けます——。アカデミックアークの東側を計画地として、南北に約250m・地上6階建のII期棟を2025年4月に開設する予定です。講義形態に合わせてレイアウトをフレキシブルに変えられる教室を配置するほか、コロナ禍による学修スタイルの多様化を踏まえ、オンライン講義を含めた多彩な講義形式に対応する空間も計画に盛り込んでいます。

このII期棟開設に合わせ、**心理学部（2～4年次）・大学院心理学研究科**以外の既存学部を総持寺キャンパスに集約し、**学部の増設や理系学部の開設構想**と合わせて、多様な学生が集う総持寺キャンパスのメインキャンパス化を実現します。

## 学びを飛躍させるII期棟の4つの特長

### 1. 学びの場の一体化

教室と研究室を混在して配置することで、多様な学生や教員の偶発的な出会いと、さまざまな活動の相互触発を促進します。

### 2. 学生の主体性を引き出す

可動式の机やいすを導入するなど、活動内容に応じて学生と教員が自ら学修環境や方法を選択・アレンジできる環境を整備します。

### 3. アフターコロナへの環境対応

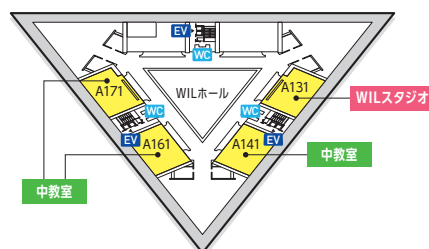
自然通風、必要換気のパフォーマンスを高め、空気清浄度の確保や非接触対応など、学生と教職員の安心安全に配慮した環境を整えます。

### 4. 大学の枠を超えた拠点づくり

地域防災機能の確保と周辺施設との機能連携により、地域と一体になった新しい大学キャンパスのカタチを具現化します。



※写真はイメージです。実際の内容と異なる場合があります。



## お知らせ

文学部と国際学部の開設などに伴い、**2022年4月より総持寺キャンパス1階の4つのスタジオのうち3つが教室に変更されます。**

A171、A161、A141が中教室となり、A131にこれまでのスタジオ機能を集約します。また、当面の間A141教室とA161教室をオンライン授業視聴用教室および資格講座の実施場所として運用する予定です。



森 瑞貴さん MORI MIZUKI  
国際教養学部 国際日本学科 4年

切りっぱなしの毛先が気に入っています。インスタで#丸みショート#ミニボブで画像を検索して、美容師さんに近づけてもらいました。スタイリング剤にはトラックオイルを使用します。ヘアアイロンで髪を巻き、オイルをつけて3分ほどでセット完了。ドライヤーやシャンプーもいい製品を選んでいきます。

川部 翔大さん KAWABE SHODAI

地域創造学部 地域創造学科 2年

もともと直毛なんですけど、大学入学を機に雰囲気を変えたくてパーマをあてました。パーマにして良かったと思っています。日々のセットには、美容院で動めていただいたGRAPTフリーズというヘアワックスを使用。髪型を崩したくない日はスプレーも追加します。セットの所用時間は3～5分です。



宮野 彩花さん MIYANO AYAKA  
国際教養学部 国際日本学科 2022年3月卒業

就職前にもう一度、以前のピンクに。「かぐや様は告らせたい」の千花ちゃん風にしてみました。ブリーチ後のケアとして、カラーシャンプーを3日に1回使って色を落ちにくくするとともに、韓国・ミジャンセンのヘアオイルで毎日ケアしています。日々のスタイリングにはNのヘアオイルを使用します。

## OTEMON COLLECTION VOL. 12

特集 | こだわりのヘアスタイル |

interview & text & photo: 穴山 あやめ / 小谷 美優 / 西本 百花 / 片山 真也 / 藤井 南帆



朝日 翔弥さん ASARI SHOYA  
国際教養学部 国際教養学科 4年

1年のときに1カ月間留学した際、散髪に行けませんでした。伸びた前髪を分けると想像以上に楽だったので、それからはセンター分けで定着。美容院でのオーダーは「センターパートを崩さないでください」と実にシンプル。毎日のセットはナチュラルバームというワックスを使っています。



三林 妃万里さん MITSUBAYASHI HIMARI  
地域創造学部 地域創造学科 4年

髪型のお気に入りポイントはインナーカラーのピンク。ヘアマニキュアで色を入れています。美容院は2～3カ月に1回のペースで、費用はカラー込みで1万3000円程度です。毎日ヘアアイロンで髪の毛を巻いてセットしています。スタイリング剤にはDplusプラントオリジンオイルを使用します。



# 2F

## ▼ Pick Up Stores

- 蕎麦とラー油で幸なった
- ふたば書房
- バーガーキング
- スマホホスピタル
- 彩色ラーメンきんせい

### ●蕎麦とラー油で幸なった

▲蕎麦の食べ方に革命をもたらしたお店。コンセプトが「幸せ」だけに、店主が試行錯誤の末に開発した「ラー油肉蕎麦」は「最高」を超える「最幸」の味わいです。



### ●ふたば書房

▼1930年に京都・西陣で創業した伝統ある書店。この茨木店は本と雑貨の融合店舗です。没頭できる本とセンスのいい雑貨は、上質な生活の必須アイテム。ふたば書房で見つけよう!



総持寺でファストフードを食べたくなったらココ!



### ●バーガーキング

◀ここへ来たらビッグサイズのハンバーガー「ワッパー」を豪快に食べるべし。このときばかりはカロリーなんて気にしないこと。安威キャンパスまで歩けばいいのです。

### ●スマホホスピタル

▶iPhoneを中心にAndroidなどさまざまなスマホや、ゲーム機の故障修理をしてくれるお店です。モットーは迅速・安心安全。近くにあると便利です。

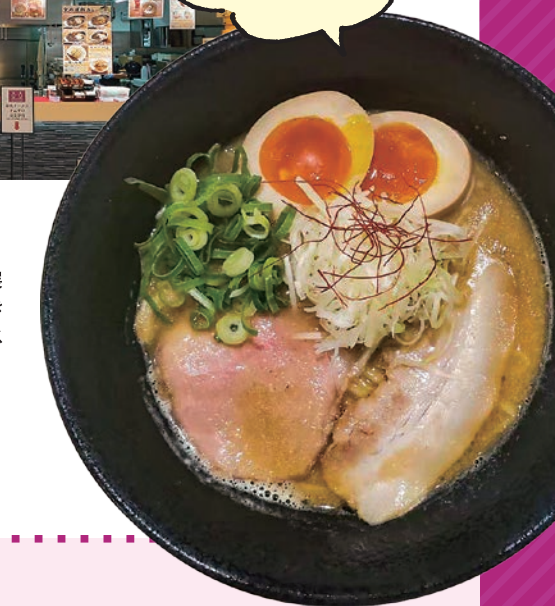


### ●彩色ラーメンきんせい

▲高槻、茨木を中心に店舗を展開し、阪急茨木市駅前にもある「きんせい」さんが総持寺キャンパス前にも来てくれました。つけ麺か、ラーメンか、迷いますね〜。



濃厚鶏白湯ラーメンは期待を裏切らない絶品の美味しさです!



追大生が行く!

GO!

総持寺キャンパス前の

# イオン探索

2021年3月に総持寺キャンパスの前に、イオンタウン茨木太田が開業しました。昼休みにはたくさんの学生が利用する姿も見られます。また開業と合わせ、追手門学院とイオンタウン茨木太田は連携協定を結び、イベントの開催や、教育や人材育成にともに取り組んでいます。そんなイオンタウンを今回はBridge学生企画広報スタッフが探検。おすすめのポイントを交えながら、一部の店舗を紹介します。

たまにはおしゃれなランチもいかが?



### ●スターバックス

▼コーヒーのかぐわしい香りの先に発見したのは、ご存知「スタバ」。テイクアウトして、大学で飲んでいる人も多いようです。

実はいろんなカスタマイズができる! おすすめは店員さんに聞いてみよう!



### ●メサベルテ

▲茨木や高槻ではお馴染みのパン屋さんです。店内で生地から作っています!究極の粒あんぱんと究極のクリームパン、どちらもウマすぎです。



昼休みよく買いに行っています。日によっては学生割引もあるのでおすすめ!

### ●サイゼリア

▶学生行きつけのファミリーレストラン。価格も良心的で、定番のミラノ風ドリアは欠かせません。追大生もよく来店しています。



### ●TORITON La Salute

◀35年もの間、地域で愛され続ける地中海のナポリ料理店。おすすめは天然酵母を使った焼き立てナポリピッツアです。



### ●3COINS+plus

▲生活雑貨やインテリア雑貨などを幅広く取り揃えるお店。300円アイテムが中心なので、大学生でも気軽に利用できます。



もちろんクオリティは100均よりも高め!

追大生にうれしい特典!



会計の際に、このカードを提示すると特典・サービスを受けることができます。

AEON TOWN

イオンタウン茨木太田  
〒567-0014 大阪府茨木市城の前町2-1  
営業時間: 10:00~21:00





## 大学入学を契機に始めた 新たなチャレンジ。



経営学部 経営学科 4年  
〔少林寺拳法部 所属〕  
Ryo Takahashi  
高橋 涼さん

### 未経験から3年足らずで日本一に

ゼロからのスタートで日本一に——。2021年11月、日本武道館で開催された「第55回少林寺拳法全日本学生大会」で高橋涼さん(経営学部4年)と岸本大毅さん(心理学部3年)が「男子組演武・茶帯の部」で優勝。この部門での学生日本一の座をつかみ取りました。組演武とは2人1組で攻防を演じる競技。決められた動きや技を正確に表現するとともに、一連の動きを流れるように見せる技術が求められます。「一つひとつの技のキレ、美しさに加えて、男同士の演武なので力強さも表現できるように構成を考えました」と高橋さん。優勝を決めたときの気持ちについて「本当に嬉しかったですね。練習漬けで嫌気がさしたこともありましたが、今までやってきて良かったと思いました」。目の前で表彰



自分史上、  
想像以上!

「想像もしなかった自分史」を  
始めた学生の肖像

Vol.13

### 悔しさも味わったから、上へ行けた

初心者から短期間で成長を遂げた要因について、「先輩に恵まれました。先輩は凄い方で、何も知らない自分に対して、すべてを教えてくださいました」。部の練習時間は午後4時から8時。それを前後半にわけ、いずれかに参加。大会前になると4時間ぶっ通しで稽古に励みます。「緑帯で大会に出場したときは負けて賞を逃しましたが、うまくなってきた実感があって、次は勝てるかもしれないという手応えを感じました。もっと上達したいと思うと、練習にも力が入ります」。演武の練習は大会の1カ月くらい前から開始。演武を通すときは毎回動画を撮影し、動きが良くない部分を修正して、演技を洗練させていきます。

結果は早くも2年のときに。優勝した大会と同じ「全日

状が読み上げられていたとき、さすがの拳士も、「ずっとドキドキしていた」とか。

高橋さんが少林寺拳法を始めたのは追大入学後。大学入学を契機に、何か新しいことにチャレンジすると決めていました。小中学校ではスポーツに励むも、「高校時代は帰宅部。打ち込めるものがありませんでした。初めての武道で心機一転、頑張ろうと思いました」。

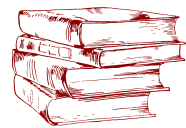
追大少林寺拳法部は「全日本」入賞の常連。それでも敷居は低く、初心者も積極的に受け入れています。「少林寺拳法を通じて自分自身を強くしたかったので、伝統と実績のある強い部を選びました。先輩の中には高校でインターハイ出場経験のある方もおられましたが、同期は未経験者ばかり。皆で一緒に成長していこうという気持ちがモチベーションになりました」。

本」の「男子組演武・茶帯の部」で3位の成績を収めます。少林寺拳法を始めて、わずか2年弱で全国上位。部活としては人生初の表彰状を手にするも「悔しかった」と高橋さん。「優勝できたはずだし、先輩からも1位を取りに行けと言われていたのに。力不足でした」。その悔しさを見事に晴らしたのが今大会というわけです。

今後は黒帯拳士として、より実践に近い運用法と演武の二刀流で飛躍をめざします。少林寺拳法とともにあった学生生活。高橋さんは「肉体的にも強くなれたけど、精神面が大きい。普通の生活をしているだけではメンタルは鍛えられません。思いだけでは自分を変えられません。最初の一步を踏み出せるかどうかです」。

新入生の皆さん、新しいチャレンジに打ってつけのタイミングは、まさに“今”ではないでしょうか。

## 文学に 触れてみよう!



あなたの人生を豊かにする

文学部 学部長  
西尾 宣明 先生

専門は日本近現代文学。大正・昭和期の小説、とくに戦中期から戦後期の小説研究を中心とする。著書・編著に、「南島へ南島から—島尾敏雄研究—」「大阪近代文学事典」「兵庫近代文学事典」などがある。



対象を通じて人間活動のすべてを学べる。そこに文学の魅力があります。文学研究はひとりの人物や単一の出来事だけを捉えるのではなく、その前後も含めてトータルにアプローチする学問です。それを通じて、人間の全体像や幅広い価値観に触れられるのが文学の良さと言えます。

文学作品を深く読み込むと、自分では直接経験できない事象までも追体験することが可能になります。その体験を自身の中へ取り入れることで、自己の内面を見つめたり、新たな価値観に触れたりできます。大学で最も身につけるべきことの一つはスキルではなく、自己の立ち位置です。必要なスキルは時代ごとに変わりますが、自分の立ち位置や価値観を築いておけば、たとえ時代が変化してもあらゆることにぶれずに対応できます。

追大の文学部は、研究対象の幅広さを特色としています。「日本文学専攻」なら古典文学から近現代文学、マンガ・アニメまで広く学ぶことができます。「歴史文化専攻」「美学・建築文化専攻」に

も多彩な学問分野が用意されています。

これは非常に恵まれた環境です。新入生の皆さんに伝えたいのは、大学生活の中で熱中できる何かを見つけて、それをトコトン極めてほしいということ。私自身を例にとりますと、大学時代に島尾敏雄(1917-1986)という作家に熱中して卒業論文にもしました。これだけでも大学で学んだ価値は十分にあったと感じています。追大の文学部なら、多彩な分野から自分と波長の合うものが見いだせるでしょう。熱中する対象があれば大学生活はもちろん、その後の人生が充実します。

茨木という土地についても触れておきます。茨木市には川端康成文学館と富士正晴記念館があり、文学史の上でも重要な空間です。井上靖(1907-1991)が芥川賞作品『闘牛』を構想したのも、ここ茨木です。ほかに多くの著名な作家が関係している場所であり、この文学的土壌の豊かな茨木の地で文学を探索するのは、実に意義深いことだと思っています。

### 話のポイントをPICKUP!



#### 人間活動のすべてを含む文学!

人間の内面、身体感覚、他者との関係、社会・経済活動、地域社会との関係など、あらゆるものを対象とする文学。人間活動のすべてをトータルに学べるのが文学の大きな魅力なのです。



#### 価値観の形成や、社会の見方が養われる!

文学作品と対峙することは、自己の内面を見つめること。それが自分の価値観と世界・社会に対する見方を形成し、真のコミュニケーション力や他者理解力にもつながっていくのです。



#### 自分が一番詳しいと思う作家や作品を見つける!

「自分が一番知っている!」と言い切れる作家や作品をぜひ見つけてください。勤めたい方法は中高時代の教科書の再読。言葉の力、美しさを感じられる厳選された作品が揃っています。



#### 茨木市は文学を学ぶ絶好の場!

まだ戦後の混乱期だった頃、茨木市に在住していた富士正晴は島尾敏雄らとともに、多くの作家を輩出した同人誌『VIKING』を創刊。関西の戦後文学は茨木市から始まったのです。

2022年4月開設!

文学部

Faculty of Letters

日本文学専攻

歴史文化専攻

美学・建築文化専攻

#### 日本文化をキーワードに興味ある対象を学ぶ。

古典・近代文学からマンガ・アニメ、言語・思想、芸術などを探究する「日本文学専攻」、地理や文化遺産、現代文化など広く日本の歴史を学ぶ「歴史文化専攻」、日本古来の建築技術から先進的な空間デザインまで学修する「美学・建築文化専攻」を設置しています。











1982年静岡県生まれ。芝浦工業大学工学部卒業、同工学研究科修士課程修了、パリ・ベルヴィル建築大学修士課程修了(フランス政府給費留学)、東京理科大学博士号取得。一級建築士事務所アトリエ・天工人、エチオピア国立メケレ大学専任講師、タコ・アーキテクト(イスタンブール)、芝浦工業大学特任講師、東京理科大学非常勤講師などを経て、2021年より追手門学院大学基盤教育機構准教授、2022年に文学部准教授。株式会社バスクデザイン一級建築士事務所の共同代表も務める。

## 今、必要な文化を理解した建築士

2022年4月にスタートした文学部の中でも異彩を放つ「美学・建築文化専攻」。文学部の枠組みで建築士を育てるという類例のない教育研究が始まりました。この狙いはどこにあるのか。「これからは文化を理解した建築士が一層求められる」と語るのは同専攻の青島啓太先生。

「建築士になるためには設計製図を修得しなければなりません。それを単なるドローイングの技術ではなく、文化を伝える方法と捉える。そんな教え方をしていきたいと思います」。従来型の技術者にとどまらない、文化の担い手としての建築士。文学的素養も備える必要があり、「建築の中には必ずふるまいがあり、そのふるまいをデザインするのは建築士の役割。つまり、その空間から生まれるコトをデザインしていくのが建築なのです。それを考えるうえで文学的なセンスが必要になってきます」。

専攻自体が特徴的なことに加え、追大が設置

## 文学的な素養を持ち文化から建築を考える人材を育成。

したことの意義も大きいと青島先生。

「本学にはこれまで蓄積してきた貴重な研究分野がたくさんあり、社会科学も心理学も、すべて建築と重なる領域が見いだせます。仮にAI・人工知能と掛け合わせたスマートハウスを考案するとすると、心理学の知見も求められる。こうした分野融合が進めば、他にはない人材が育てられます」。

### 海外の建築文化に触れた学生時代

文化という切り口を大切にする青島先生。それはユニークなバックグラウンドと関係がありそうです。大学1年で欧州での「海外建築実習」に参加したほか、諸外国との交換授業プログラムを履修。早期から海外への関心を高めていました。大学4年のときには「街が教科書の国へ」と、1カ月間パリに滞在します。

「毎日いろんなものを見て回りました。そこで感じたのは街、空間、すべてが文化的背景や意図を担っていること。フランスでは建物の寿命が長く、住み変わりが激しいのですが、そのたびに更新が行われます。その更新は住まい手自身の役割。市民皆が文化の担い手である感覚を持っていました」。海外体験はその後も続き、仕事ではエチオピア、トルコに駐在し、フランスの大学院で学びます。

「様々な文化の中で建築に触れる希有な体験をしました。それを教育研究と建築設計に活かすのが私の役割だと思っています」。

育成する人材像は「文化から建築を考える人」。活躍の場は建築設計事務所が中心となるでしょうが、例えば文化財保護を担う公務員などの進路も支援していく方針です。

「文化財を守るために禁止事項を言い立てるだけではなく、守るにはどうすればいいか。それ

を発展的かつクリエイティブに考えられる人材も育ててみたいです」。

研究テーマの事例を挙げると「建築を分解する」こと。その意味は、「建築の要素一つひとつを検証します。建築が実際に何でできているのかを掘り下げて知らないと、サステナブルな建築ができないからです。果たしてここで使うのはコンクリートで良かったのか。それを疑える人が、建築を分解できる人です」。

サステナブルは重要なワード。同専攻では岐路を迎えている建物の更新にも取り組みます。「古くなった集合住宅や団地の更新もテーマ。単純に新しい建物をつくるのではなく、既存の建物をリノベーションすることで再価値化を図っていくことも文化の継承の一つです」。

### 単純な消費者になってはいけない

大量生産、大量消費の時代が終わりを迎える今、建築物を単に消費材とする考え方も再考を促される時期がすでに来ていると言えるでしょう。その意味で「美学・建築文化専攻」は価値の転換をリードできる人材育成の場なのかもしれません。

「一番避けなければならないのは、単純な消費者になってしまうこと。単なる消費者にならないことは、大学で学んでいる意味でもあるのです。建築に限らず、システムでも、研究成果でも、自分がつくる側になる。専門性とは、そのためにあるのです」という青島先生の言葉は、追大生一人ひとりに文化の担い手、発信者になってほしいというメッセージです。

#### スタッフの視点から

先生の授業は以前オンラインで受けたことがありますが、対面はこの取材が初。緊張しましたが、色んな質問ができ、美学・建築文化専攻で学んでみたい!と真剣に思いました(中野 薫)

FACE  
Professor's  
Interview

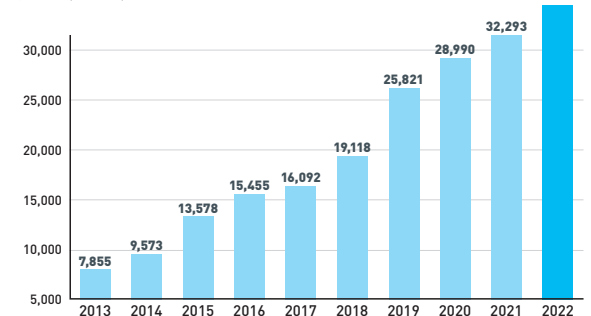
## Topics

### 追手門学院大学 入試総志願者数10年連続増が確定! 昨年に続き3万人を超え!

追手門学院大学の2022年度入試(2022年4月入学の学生が受験)の延べ総志願者数が昨年の32,293人を上回り34,462人となりました。これで10年連続の増加が確定したことになります。

茨木総持寺キャンパスの開設以降、文学部や国際学部の開設などをはじめ、教育の充実に向けた取り組みが寄与していると考えられます。

▶2013(平成25)年度からの追手門学院大学の延べ志願者数の推移



# OTEMON NEWS AND TOPICS

## [ 追手門ニュース&トピックス ]

### 人権について考えよう

## 「差別をしてはいけない」と“お題目”を唱える前に

社会学部 教授 蘭 由岐子

私はハンセン病や薬害エイズなどをテーマに医療社会学の研究を行っています。授業ではできるかぎりこれらについて話そうと心がけています。いずれも感染した人やその家族が排除や差別の対象となった病气であり、彼らの受けた人権侵害の実態も中心的な話題となります。そのため、授業後の提出物には、ときに、冒頭から「差別をしてはいけない」という紋切り型のコメントを書いてくる学生がいます。たしかに、それは正論です。しかし、そういう学生に限って、関心の度合いが低かったりおざなりな内容のコメントであったりします。まるで、「差別をしてはいけない」という「正しい」ひとことで、ひとのイヤな側面は見たくない、難し

い話はゴメンだと宣言しているかのようです。最近の学生の社会問題への関心が低くなったことの背景には、ややこしい差別問題や被差別のつらい経験のことを聞きたくないとか、心ない発言や行為をしてしまったときのバッシングを怖れて、そのような問題群に接近しないという心持ちがあるのかもしれません。しかし、人間はものごとに違いを見出し、それらをカテゴライズしながら生きていく存在であり、ある意味、「偏見」のかたまりであるというのが社会学の見方です。そうであればこそ、私たちは偏見や差別や排除と決して無縁ではられません。差別を「してはいけない」と言われながら「してしまう」のが私たちだといっ

てもいいでしょう。であるならば、自分の行為が差別であると指摘されたり、自分自身でそのことに気付いたりしたときこそ、差別のことを考えるよいチャンスなのではないでしょうか。ちょっと立ち止まって差別の意味を考え、差別という行為から何を学べるのか、つかみ取ってもらいたいと思います。そうすれば、当該のテーマが「ひとごと」ではなくなるかもしれません。むしろ、自分自身が差別される側、問題の渦中にいることがあきらかになるかもしれません。「差別をしてはいけない」と自分を閉じるのではなく、開くことによって議論を重ねることをおすすめします。

## Topics

### 改革力が高い大学ランキングで関西の国公立大学で3位に

大学通信が全国の高校2000校に調査したアンケートの「改革力が高い大学ランキング2021」において、本学が全国で12位(昨年23位)、関西の国公立大学で3位にランクインしました。

## Topics

### 総持寺キャンパスのスカイガーデンがリニューアル!

キャンパス内に「追大生が落ち着ける新たな居場所を作りたい」という想いから学友会追風を中心に学生が企画し、ベンチや「OIDA」モニュメントが新たに設置されました。



## Topics

### 2人に1人が合格! 行政書士試験に23名合格

2021年度の行政書士試験において、23名が合格しました。合格率は驚異の57.5%と、全国平均の11.2%を大きく上回り、さらに2年連続で合格率50%を越えました。



Topics

兵庫県自治学会研究発表会で  
藤原ゼミの3名が優秀賞を受賞

地域創造学部の藤原直樹ゼミに所属する4年生の安積紗菜さん、清水龍さん、野間須巨さんの3名が、自治体の行政課題について研究し提言を行う兵庫県自治学会研究発表大会で、県庁職員へのインタビューや学生100名へのアンケートを通じて調査・研究した「兵庫県の県内人口の減少と若者の人口流出の関連」を発表し、優秀賞に選ばれました。

Sports

少林寺拳法部が  
第55回全日本学生大会で優勝

11月に日本武道館で行われた第55回少林寺拳法全日本学生大会で、高橋 涼さん(経営学部4年)、岸本 大毅さん(心理学部3年)が組演武男子茶帯の部で優勝しました。そのほか、女子単独有段の部で榊田 美音さん(国際教養学部4年)が3位となり、組演武女子初段の部では藤原 百花さん(2022年3月卒業)、郡山 悠さん(社会学部3年)が3位となりました。



Sports

女子ラグビー部  
6年ぶり2度目の全国優勝!

2021年7月に行われた第8回大学女子7人制ラグビーフットボール交流大会で女子ラグビー部が6年ぶりに優勝しました。MVPには、村田彩乃さん(社会学部3年)が選出されています。



Sports

男子ラグビー部  
全国大会で初優勝!

2022年1月に開催された第72回全国地区対抗大学ラグビー大会で、近畿代表として大会に初出場した男子ラグビー部が、決勝の東北学院大学戦を55-19で勝利し、初優勝しました。今シーズンは関西大学ラグビーの1部昇格を目標に更なる飛躍を誓います。



Award - アワード -

日本パーソナリティ心理学会  
第30回大会 優秀大会発表賞

増井 啓太(心理学部 准教授)  
研究テーマ「デマツイート拡散意図に関わる不確実さ不耐性と自己への関与の影響」

日本認知科学会第  
38回大会 大会発表賞

白砂 大(心理学部 特任助教)  
研究テーマ「そのヒューリスティックは、そもそも使えるのか ～正確性と使用可能性に基づくヒューリスティック使用の検証」

日本水泳・水中運動学会  
2021年次大会 論文発表賞

林 勇樹(社会学部 講師)  
研究テーマ「LINEを用いた競技データ即時フィードバックシステムの開発」

日本土地環境学会  
奨励賞

何 彦旻(経済学部 准教授)  
研究テーマ「中国瀋陽市における生活廃棄物分別処理の状況に関する研究」

Special Topics



**2017年卒業の北間優衣さん(所属:日本生命)  
東京2020パラリンピック 車いすバスケットボール女子で活躍!**

2017年に社会学部を卒業した北間優衣さんが、東京2020パラリンピックの車いすバスケットボール競技に出場し、フォワードとして全試合スタメンで出場するなど、6位入賞という結果に大きく貢献をしました。

動画公開中!

北間さんが本学を訪問し、結果を報告しました!





BOOKS

追手門学院大学・教員の著書 (五十音順)

※教員の所属学部は2022年3月時点のものです

|                                                                                             |                                                                                                     |                                                                                                           |                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <b>アフターコロナの観光学</b><br>COVID-19以後の「新しい観光様式」<br>間中光(地域創造学部)分担執筆<br>2021年12月／新曜社               | <b>APPLAUSE</b><br>English Communication I<br>蛭田勲(国際教養学部)共著<br>2022年2月／開隆堂出版                        | <b>Amity</b><br>English Communication I<br>蛭田勲(国際教養学部)共著<br>2022年2月／開隆堂出版                                 | <b>今、平和にとって「国民」とは何か (平和研究55号)</b><br>中村都(基盤教育機構)巻頭言<br>2021年3月／早稲田大学出版部 |
| <b>ケースブック コストマネジメント 第3版</b><br>李建(経営学部)共著<br>2022年2月／新世社                                    | <b>コロナショックと就労 - 流行初期の心理と行動についての実証分析 -</b><br>神吉直人(経営学部)共著<br>2021年11月／ミネルヴァ書房                       | <b>2021証券アナリスト 第2次レベル 通信教育講座テキスト 市場と経済の分析 第6回 国際経済・金融の諸問題</b><br>櫻庭千尋(経済学部)著<br>2022年2月／公益社団法人日本証券アナリスト協会 | <b>情報セキュリティ概論</b><br>中西通雄(経営学部)共著<br>2022年3月／一般財団法人 放送大学教育振興会           |
| <b>自由エネルギー原理入門 - 知覚・行動・コミュニケーションの計算理論 -</b><br>乾敏郎(特別教授)共著<br>2021年11月／岩波書店                 | <b>スポーツビジネスの「キャズム」 - 新リーグ、新チームの成功と失敗を分けるマーケティング理論 -</b><br>上田滋夢(社会学部)著<br>2021年7月／晃洋書房              | <b>大学教育と学生支援 大学SD講座2</b><br>清水栄子(基盤教育機構)共著<br>2021年5月／玉川大学出版部                                             | <b>大学広報を 知りたくなったら読む本</b><br>谷／内藤(広報課)著<br>2021年12月／大学教育出版               |
| <b>彭明敏 蔣介石と闘った台湾人</b><br>近藤伸二(経済学部)著<br>2021年5月／白水社                                         | <b>JUNGIAN PSYCHOLOGY IN THE EAST AND WEST (東洋と西洋のユング心理学)</b><br>中村このゆ(心理学部)編著<br>2021年7月／Routledge | <b>早稲田大学 日本語学会 設立60周年記念論文集 第1冊 言葉のしくみ</b><br>増地ひとみ(基盤教育機構)共著<br>2021年12月／ひつじ書房                            | <b>異文化間能力の ライフストーリー的研究</b><br>中尾元(経営学部)著<br>2022年1月 出版                  |
| <b>女性活躍が 企業価値を高める - 子育て中の部下を持つ経営者・上司のためのマニュアル -</b><br>上田理恵子(客員教授)著<br>2021年8月／神戸新聞総合出版センター | <b>実践から学ぶ 地域活性化 - 多様な手法と多彩なカタチ -</b><br>藤原直樹(地域創造学部)共著<br>2021年9月／同友館                               | <b>フランス語で読む 哲学22選</b><br>武田裕紀(基盤教育機構)共著<br>2021年1月／朝日出版社                                                  | <b>言伝(ことづて) 2020年学長は 学生に何を伝えたのか</b><br>貞銅正宏(学長)著<br>2021年10月 出版         |

追手門学院大学出版会



# 追手門学院大学の卒業生を訪ねて

[ interview : 片山 真也 ]

第49期  
卒業生

画家 大嶋 玄(GEN) 氏

**片山**◎どのような活動をされていますか。

**玄**◎スラム街にアートを施すことで観光地化を図り、貧困問題の解決を目指す「アート街プロジェクト」のほか、個展を開催したり、企業さんと一緒に仕事をしたりしています。

**片山**◎追大生の頃から今のアートの仕事を目指されていたのですか。

**玄**◎挫折体験があって、自分にはアートの才能がないと思い込み、銀行員になるつもりで経営学部の水野ゼミで学んでいました。

**片山**◎でも就職はされていませんか。

**玄**◎水野先生から企業のコンプライアンス・マニュアルに挿絵を提供する仕事を紹介していただき、そのつながりで参加したアートイベントで鑑賞者投票の1位を獲得しました。名前を知ってもらえるようになり、ネパールの支援団体とも縁ができました。

**片山**◎それがアートの道に進むきっかけに？

**玄**◎現地へ視察に出向くと、想像以上に劣悪な環境。そのとき、自分のアートが希望になって救える命があることを知りました。3年の秋頃、就活開始の時期ですが銀行員の準備を捨てて、アートの道に進む決断をしました。その後、準備や資金集めを経て、ネパールのスラム街に色を塗りにいきました。

**片山**◎ネパールの次はどこでプロジェクトをされましたか。

**玄**◎セブ島のバジャウ族が暮らす海上スラムで活動しました。プライマー(下地)を塗り、そこに色を施し、絵を描くという3段階の仕

事なのですが、ペンキを塗ると「ありがとう。もういいよ」と。絵なんて要らないんだという反応です。その状況に村長が焦り出し、それで村長宅の扉に絵を描くことに。描いていると次第に人だかりができて、完成すると拍手喝采。さっきまで絵は要らないと言っていた人たちから次々と依頼がありました。

**片山**◎アートの力をご自身で体感されたのではないのでしょうか。

**玄**◎「アートで世界を救う」と言っていたものの、それは救いたいという漠然とした希望でもあった。それが確信に変わったのが、このセブ島での活動です。

**片山**◎今では堂々と「アートで世界を救う」を掲げられていますね。

**玄**◎お金や権力で世界平和は遂げられていませんが、アートは平等に人の心へ届くことを感じてきました。今盛んに描いているのが「フォークアート」。生活に不可欠な食器で絵を描くことで、アートと衣食住の同等性を表現しています。あとはサステナブル(SDGs)をテーマにした百貨店の展示・イベントにも協力させてもらいました。

**片山**◎今後の活動について教えてください。

**玄**◎僕の場合、テーマで言えば「明るい未来」を描いていくことになります。アートで社会の問題を解決すると言っても、決してお説教的な言動をするつもりはありません。ワクワクする気持ちを忘れずに、「明るい未来」に進んでいきたいと思っています。

これからも「明るい未来」を描いていきたい



Profile | 画家・玄(GEN) 氏

1997年大阪生まれ。経営学部経営学科卒業。在学中に若手アーティストの作品展 ART stream大丸心斎橋で賞を受賞して以降、大阪を中心にアートフェスを開催。「アートは世界を救う」を信念に、スラム街での「アート街プロジェクト」を手掛ける。東京や大阪、滋賀で個展を開くなど活動し、2021年にリニューアルオープンした阪神梅田本店のモニュメントオブジェも製作。

## 取材を終えて

取材を通して、自分の好きなことややりたいことに対して素直な気持ちで取り組むことの大切さを学びました。現在就職活動中で自分と向き合う機会が多いですが、どんなときも自分の考えや気持ちを大切に、いろいろなことに挑戦したいと思いました。

経営学部 経営学科 4年  
片山 真也(まや)さん



## 編集後記

初めてBridgeの制作に携わらせていただきました。学生への取材を行うにあたり、冊子制作のブログの方からインタビューの方法や写真の撮影技法などを学ぶことができ、とても貴重な経験になりました。また、半年かけてBridgeを制作してきたことで、私にとって大切な1冊になりました。取材にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。(西本 百花)

## 学生企画広報スタッフ

穴山 あやめ [社会学科 4年]

小谷 菜優 [社会学科 4年]

宇野 あゆみ [地域創造学科 4年]

大矢 皓登 [地域創造学科 4年]

曾我部 菜々子 [国際日本学科 4年]

中群 薫 [地域創造学科 4年]

西本 百花 [経営学科 4年]

片山 真也 [経営学科 4年]

藤井 南帆 [経営学科 3年]

高橋 一平 [社会学科 3年]

●2022年3月卒業生

山本 健太 [社会学科]

「BRIDGE」制作メンバー[学生企画広報スタッフ]1・2・3年生 大募集中!

●見学のお申し込み・お問い合わせ/茨木安威キャンパス1号館2F 広報課[担当: 仲西/山下] MAIL:koho@otemon.ac.jp

メールを送り  
いただけます▶

